

## 第3章 全体総括

# 3-1. 本事業の成果

## 本事業の成果

本事業での成果は以下の通りである。

### ① KGI/KPI提案に向けた実証調査

- 1、SNS分析を活用した定量調査、2、有識者のコラム、3、食・食文化におけるインバウンドを意識したツーリズム観点での定性調査を元に、定量×定性を組み合わせ、日本だけでなく国際的な観点で、日本のソフトパワー活性化を目標とした複数のCJPFのKGI/KPIの仮説を策定することが出来た。
- 1の定量調査では、初年度の調査事業で、5か国の傾向が見えたことにより、日本のソフトパワーをより拡大するための汎用的なモニタリング基盤を創ることが出来た。

### ② CJPFタスクフォースとプロジェクト運営による評価項目の実装

- モデル評価のための成功事例を有する事業者の選定、考察を行う事務局として、伴走し、全12事業のプロジェクトの分析・成功事例の可視化を行った。
- 進捗会を途中で設けることで、定期的に事業進捗を全体で共有し、ゴールに向けたアドバイス・軌道修正の機会を創出した。これにより、進捗が遅れている内容へのスケジュールの見直しや、方向性の軌道修正、再考など早めに対処することができ、全事業の最終的なアウトプットが実現できた。
- 事業者と共に、③事業創造に向けたテーマの仮説を生み出し、次年度以降CJPFの事業共創体制の提案が明確となった。
- 調査結果、モデル事業のプラットフォームウェブサイトを構築し、②共有・発信の基礎を創ることが出来た。

### ③ 各種イベント評価の統合管理・企画運営

- 今期、「CJコンテスト」、「CJマッチングアワード」、「地方版CJ会議」と官民連携プラットフォーム(CJPF)の連携を図ったことで、次年度以降、トータルで戦略統一化する基盤を創ることが出来た。

## 3-2. 今後取り組むべき課題と施策

### 事業の総括と次年度への提言 -CJPF3つの機能を強化するステージの実現に向けて

#### モデルパターンの社会実装を進めるためのコミュニティづくり

初年度の実績として成功事例の調査分析を通じたモデルパターンの可視化を推進した。次年度は1年目の検証結果を踏まえた上で、社会実装を促進するためのコミュニティづくりを強化してゆき、CJPFの機能をより拡充してゆくことを期待する。

#### ギアアップ期 2年目 (2022年4月～2023年3月)

- CJPFの伴走力を強化するためのコミュニティ育成
- 成功事例のモデルパターンを社会実装
- CJPFの連携パートナーの拡充  
(メディア、地域金融機関、外資企業等)
- 関係省庁、地方自治体との更なる連携強化
- 共創プラットフォーム「cjpf.jp」の調査分析力、コンテンツ力の強化

#### フル駆動期 3年目 (2023年4月～2024年3月)

- CJPFパートナー企業と連携をした共創型プロジェクトの実装
- CJPFの連携パートナーの更なる拡充
- CJPFの自走力の強化
- コミュニティと連動をした伴走力育成とネットワークの拡大

#### サステナビリティ社会の実装を目的としたグリーン・クールジャパンへのシフト

今回の調査分析において顕在化が確認された「サステナビリティ」、「自然との共生」、「循環型社会」、「健康」、「プラントベース」などへの世界的な意識の変容と関心度の向上を背景に、クールジャパン戦略アクションにおけるグリーン・シフトを期待。



#### CJ戦略におけるモデルパターン「CJV = X \* Y \* I」を共創する仕組みを強化

CJ戦略を推進してゆく上で重点強化すべきコア機能を明確化し、成功実績のある個人や法人のパートナーとの連携を強化。民間企業や各省庁、地歩自治体との伴走体制を高め、共創するチカラを促進する。また、これまでバラバラであったCJPFの各事業(コンテスト、マッチングアワード等)をワンストップ統合した戦略編集を行い、実行力を強化する事を進言する。

#### コア機能

- ① 海外マーケティング力
- ② 地域連携力
- ③ ブランド・デザイン力
- ④ デジタル・テクノロジー力

#### 新規連携先

- ① デジタル企業(IT、ウェブ3.0等)
- ② メディア企業(国内外)
- ③ 金融(信金、地銀、政府系)
- ④ 海外企業

#### 統合化

- ① コミュニティ強化
- ② 「cjpf.jp」調査コンテンツ強化
- ② マッチングアワードの進化
- ③ 動画コンテストの改善